第 2014-41 号

恵みと真理のニュース

2014 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　教会と聖徒を仕える神霊な喜びと幸せを与えてくださる神様に感謝を捧げます。

私は 1989 年妻からしつこく伝道されアンヤン聖殿でイエス様を私の救い主として受け入れました。教会には通いましたが最初はかろうじて主日だけ捧げる形式的な信仰生活でした。主を人格的に出会わなくて神様を知らなくて信じない人と同じで世をもっと愛しました。家庭で様々な苦難が来る時にも祈りながら神様の御心と神様の助けを求めなく神様を恨んで不平しました。不信者と変わりがなかった生活をしました。
そうするうちに 2001 年通っていた職場の上司との不和で会社を辞めてしまい 1 年間近く失職状態で過ごしました。当時、区域長だった妻が私と家族のため毎日神様に涙の祈りをしました。まず私が神様を畏れ真実な生活をして早く新しい職場を探して家庭が安定するように祈りました。
哀れみ深い神様は妻の祈りに答えてくださり 2002 年キンポにある良い職場で導いてくださいました。神様の愛と摂理で私の信仰が成長しました。サンボンからキンポにある職場までは車で 1 時間 30 分もかかって毎日出勤するのが大変な事でした。しかし、神様の恵みで探した職場なので忍耐しながら誠実に通いました。すると神様は子供が大学に入学した 2007 年にキンポ聖殿の近くのところに引越しするようにしてくださいました。教会と職場が近くなり私は楽でしたが、妻は大きい都市の生活を慣れていてまだ田舎の新しい家に慣れるまで大変でした。しかし時間が経ち私達の夫婦は世の友達を忘れ教会中心の生活をしながら主だけを仕える環境になるよに導いた神様に感謝するようになりました。
当時男性奉仕連合会の総務の勧めで連合会の交通室で礼拝に参加する聖徒の駐車を助ける奉仕を始めました。特に雨の日と雪が降る日と寒い時には大変でした。しかし、“人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を捧げるために来たのである。”（マルコによる福音書　10：45）という主の御言葉を考え“こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。”（ローマ書 12：1）という御言葉を聞き従って熱心に奉仕しました。弱くて足りない私に長老と多くの執事達の暖かい配慮が大きく慰められ何よりも礼拝に参加して恵みを受ける聖徒達の姿を見ると私も恵みを受け聖霊で満たされます。そのように奉仕のことをしながら私の信仰も驚くほど成長をすることを感じました。私に神様が 2008 年安手執事の職分をくださいました。家族と聖徒の祝福の中で任職礼拝をするうちに父のところに戻ってその大きくて暖かい愛の父の懐に抱かれたどら息子の心になり今まで生きて来た自分の人生を振り替えてみながら神様の限りない恵みで悔い改める祈りと感謝と感激の祈りをしました。喜びと感謝しながら神様に栄光を捧げました。賛美歌 410 章あ！神様の恵みでこの賛美が心の深いところから歌いました。これから死んでも生きてもただ主だけを見上げ神様の栄光のため生きると決心しました。
新しく信仰の覚悟と決断を下ろしてもっと御言葉と聖霊の充満になりました。不信者を哀れんで職場やどこでも大胆に福音を伝える事が出来ました。また、神様は世の空しい事を捨て何ことに主を考え主のための働く心を与えてくださいました。続いて男性の奉仕連合会で総務と施設管理長の重大な職分を与えて下さり私は誠実に担えるなか神霊な喜びを与えてくださいました。
あいかわらず弱くて足りない信仰ですが私の過去を考えると今のわたしは神様の奇跡です。礼拝中心の人生を生きていて主と教会を仕えることに最善を尽くしながら世のどこでも誰からも得られない最古の喜びと幸せを思っています。ハレルヤ！
これからもっと私に与えてくださった神様の恵みと愛を考え柔和で謙遜な姿勢で教会と聖徒を仕えます。相変わらずイエスキリストを愛し小さいことにも忠誠することを心から念を押します。瞬間瞬間導いてくださる主の恵みで主を対する愛と熱情で受けた職分を担えるように祈ります。そして、私とキンポ聖殿の男性奉仕連合会の会員達にいつも霊肉共に健康を与えて下さり主の事をするためにも力をくださり多くの働き人を与えて下さり教会がもっと大きくリバイバルする事を信じて感謝しながら神様に全ての栄光を捧げます。
“わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス.キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。”（テサロニケの信徒への手紙―）

[信仰コラム]　凡事に考えていいものを取るべきだ

″すべてのものを識別して、良いものを守り″(テサロニケの信徒への手紙ー5:21)

″凡事に考えていいものを取るべきだ″しました。すべてのことを分別して、最善の選択をするという意味です。最善の選択をするには、分別をうまく駆使します。分別とは何を塗って賢明に判断することをいいます。賢明な分別のためには何よりも分別基準がいなければなりません。
凡事に考えていいものを取るには、神様の意味を分別基準にしなければならないです。
アダムとハワはサタンが誘惑する言葉を見分けることができる基準を持っていました。それは神様が彼らに命令した言葉です。しかし、彼らは神の意思を無視してしまうので誤った選択をするようになり、その結果、エデンから追い出されました。広野で悪魔は、イエス様に肉体の情欲と見識の情欲と現世の自慢の種で試験しました。神様はこれを記録された言葉と判断して断固として撃退しました。神は十字架にかかるようになり仕事を控えて祈祷するときにも″…しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい″(マタイによる福音書 26:39)と祈りしました。神様のこのような姿は私たちがすべてのことを神様の意味に適切に決定して選択できるようにする母本になります。神様の意味を知ってその意味に合致した便を選択するのが賢明な選択です。後悔ない選択で最善の選択です。
凡事に考えていいものを取るには、神様の性格を分別基準にしなければならないです。
聖書に神様の属性が啓示されています。その属性の中には私たちが最善を選択する上で基準となる神様の性格があります。公義は私たちが凡事に考えていいものをとる基準にしなければならないこと神の性格です。神様は賞をくれるような人には必ず賞を与えて、罰を与えるほどの人には必ず罰をくれます。真実は我々が凡事に考えていいものをとる基準にしなければならないこと神の性格です。神様は真実れるからに約束したことを必ず守って成し遂げます。人子は、韓国が凡事に考えていいものをとる基準にしなければならないこと神の性格です。人子は、心の底からの沸き出る愛です。オンユと謙遜は私たちが凡事に考えていいものをとる基準にしなければならないこと神の性格です。
凡事に考えていいものを取る賢明な態度をいくつか調べてみます。
第一に、不幸な理由より幸せな理由を考えて言わなければなりません。キリスト人は不幸を飲み込んでしまった幸せな理由を持っています。
第二に、ないことよりあることを考えて言わなければなりません。ないことを考えて話す人は心がいつも鬱積して悲しいがいることを考えて話す人はいつも明るくて楽しいです。第三に、凡事に悪い意味より良い意味を付与することにしなければなりません。使徒パウロは患難について″患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである″(ローマの信徒への手紙 5:3、4)を行い、″、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである″(コリントの信徒への手紙二 4:17)しました。第四に、障害と問題を障害と思うより乗り越えて浮上する踏み台にしなければなりません。神様にしつこく懇願し、死霊に取り憑かれた幼い娘が治りを受けさせたスロボニゲ女性は障害物をむしろ踏み台にした人の典型です。凡事に考えていいものを取る方法を悟った人です。
神様の意志と神様の性格に合致した便を選択することが凡事に考えていいものを取る秘訣です。皆さんは凡事に考えていいものを取る賢明な選択者になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

愛する者等が守って行うこと

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ユダはこの手紙を読む対象を向けて ‘愛する者等よ’という呼称を三度も使いました．この手紙の書き始めには ‘愛する者等’と呼ばれる人々の身分と状態が手短だが明瞭に現れてあります．**“イエス・キリストの僕またヤコブの兄弟であるユダから、父なる神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人々へ。”(ユダの手紙，1:1)**と言いました．**第一**，神様に召されたと言いました．**第二**，神様の父にあって愛されたと言いました．**第三**，イエスキリストのために守られた者等だと言いました．今日の本文には ‘愛する者等’と呼ばれる人々が心に留めて遵行しなければならないことを明示しておきました．**“愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。疑いをいだく人々があれば、彼らをあわれみ、火の中から引き出して救ってやりなさい。また、そのほかの人たちを、おそれの心をもってあわれみなさい。しかし、肉に汚れた者に対しては、その下着さえも忌みきらいなさい。”（ユダの手紙，１：２０～２３）**

第一は、“極めて聖なる信仰の上に自分を建築しなさい”と言いました．

ここで言う‘信仰’と言うのは人間の信念ではないです．福音に根付いた信仰，神様のお言葉に根拠した信仰を示します．この信仰を ‘聖なる信仰’と言いました．人間の思想，哲学，幻想，神秘体験，宗教に根拠した信仰とは区別された他の信仰です．昔や今日や聖書どおり信じないながらも自分が真の信仰を持ったと思う人々がいます．甚だしくは聖書を批評しながらも自分は正しい信仰を持ったと思う者等があります．このような信仰は ‘いつわりでむなしい信仰’です．創造主に対する信仰，聖三位の神様に対する信仰，あがないに対する信仰，天国に対する信仰，イエスキリストの復活と再臨に対する信仰，聖徒の復活に対する信仰，このすべての信仰は聖書に一致しなければなりません．聖書に符合する信仰だけが ‘聖なる信仰’です．極めて聖なる信仰上に “自分を建築しなさい”と言いました．イエスキリストがおっしゃるのを **“それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。”(マタイによる福音書 7:24～27)** しました．聖書に根拠した聖なる信仰の上に私たちの人生を建築しなければなりません．

二番目は、“聖霊で祈りなさい”しました．

祈らない聖徒はないです．何を祈るのか，いくら祈るのかに差があるだけです．聖徒たちの祈る目的は非常に多様だがひっくるめて二つで区分することができます．

第一，神様のみ旨を分別するために祈ります．善良な心で熱心に努力さえすれば良い結果を得るようになるのではないです．神様のみ旨に適当に仕事しなければなりません．そうするので **“あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。”(ローマ人への手紙 12:2)**と言う言葉のように私たちは神様のみ旨を分別するために祈らなければなりません．

第二，神様の助けを受けるために祈ります．自分の力で暮すことと神様の助けを受けて暮すことを比べるとこのようです．自転車に乗って平地を走ればあまり大変ではないです．しかし傾斜がひどい坂道をペダルをかき混ぜてで走ることは非常に大変な事です．徐徐に上がると言ってもいくら行けなくて止めるようになるでしょう．ところでモーターを装着した自転車に乗って仮面大変ではなくて上がることができます．人の知恵と力は限りがあります．神様には無限な知恵と能力があります．神様は彼に謙遜に助けを求める者等を助けることを喜びます．**ヘブル人への手紙，4 章 16 節に “だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。”** 言いました．“聖霊で祈りなさい” しました．聖霊様は聖徒たちを慰めて教える事をなさいます．そして聖徒たちを手伝ってくれます．**エペソ人への手紙，6 章 18 節に “絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。”** しました．私たちは神様のみ旨を分別するために聖霊様の教えることと導くことを信じて切に求めなければなりません．そして神様の助けることを受けるために聖霊様に頼って祈らなければなりません．

三番目は、“神様の愛の中から自分を守りなさい” しました．

神様の愛は無限で盛りだくさんです．ところで本文に記録された ‘神様の愛’と言うのはイエスキリスの中に現われた愛を言います．ヨハネの第一の手紙，にこんなに記録されました．**“神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。”(ヨハネの第一の手紙，4:9,10)．** 神様のこのような愛の中から自分を守りなさいと言いました．このみ旨を三種類で分けてよく見ます．**第一**，イエスキリストの中に現われた神様の愛を思いながら暮さなければなりません．**第二**，神様の愛を信じなければなりません．**第三**，神様を相変わらず愛しなければなりません．

四番目は、“永生に至るように私たちの主イエスキリストのあわれみを待ちなさい” しました．

永生と言うのは永遠に暮すという意味の以上です．悪魔も永遠に住んで地獄に入った者も永遠に暮します．永生と言うのはイエスキリストの中で受けた新しい命です．聖霊で生まれかわった者に与えられた命です．ところが “永生に至るように主イエスキリストのあわれみを待ちなさい”と言った理由は何ですか？イエスキリストを信じる人は現在永生を得た状態にあります．しかし窮極的に永生はイエスキリストの再臨と最後の審判を通じて完全に享受するようになります．最後の審判でイエス様が “私があなたがたをまったく分からない．” とおっしゃればその人は捨てられるようになります．

イエスキリストが親しくおっしゃるのを **“わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。”(マタイによる福音書 7:21～23)** しました．聖書に記録された神様の言葉で左でも右でもかたよった神学や教理に付きながら信仰生活をする人は熱心を出して祈って讃尿しても天国に入ることができないです．イエスキリストにあって現われた神様のあわれみを頼らないで人間の功労を頼る者は神様の退けることを受けるようになります．主 神様のあわれみはイエスキリストだけ頼る者に臨むようになります．

五番目は、“疑う者等をあわれんで思いなさい” しました．

私たちがこの世の中に住むうちにお手助けにならなければならない対象が誰なのかを明示しました．疑う者等をあわれんで思いなさいと言いました．‘疑う者等’と言うのは神様の恵みと真理に固く立つことができなかった者等を意味します．福音を聞いても半ば信じ半ば疑う人々で信仰が行ったり来たりする信者たちを示します．まだ信仰がか弱くて惑いを受けて疑う者等をあわれんで思いなさいと言いました．こんな者等を面倒を見てくれなさいというお話です．

六番目は、“どんな者を火で引っ張り出して救いなさい” しました．

疑う者等よりずっと深刻な状態に陥った者等を示します．異端的教理にすぼっと陥ってしまった者等です．こんな人々を相対する時は危険がよります．ややもすると汚染しないように気を付けなければなりません．その人はあわれんで思うが彼らの罪は嫌悪しなければなりません．水におぼれた者を引き上げる時のように用意周到ではなければなりません．そうではなければ返って引き入れます．火の中にいる人を救出するためにはむやみに飛びかかってはいけないです．適切な装備が必要です．

ユダが聖霊の感動されて愛する者を向けてくださったメッセージの中に今日の本文に記録された六つの命令をよく見ました．1) 極めて聖なる信仰の上に自分を建築しなさい．2) 聖霊で祈りなさい．3) 神様の愛の中から自分を守りなさい．4) 永生に至るように私たちの主イエスキリストのあわれみを待ちなさい．5) 疑う者等をあわれんで思いなさい．6) どんな者を火で引っ張り出して救いなさい．聖徒の皆さんはこのような命令を従って生きて行くことを大きい喜びと幸せで思うように願いします．